



2021 年 5 月 7 日

各 位

会 社 名 株式会社 島 精 機 製 作 所
代 表 者 名 代表取締役社長 島 三 博
(コード番号 6222 東証第一部)
(問合せ先)取締役執行役員管理本部長 南 木 隆
(TEL 073-471-0511)

新「中期経営計画」策定について

当社は、激しく変化する経営環境に対応すべく、このたび 2021 年度から 2023 年度までの3ヵ年を対象とする新しい中期経営計画「Ever Onward 2023」を、下記の通り策定いたしましたので、お知らせいたします。

記

1. 新「中期経営計画」の概要

(1) 対象期間：

2021 年4月から 2024 年3月までの3ヵ年計画

(2) 経営理念／ミッション：

Ever Onward ー限りなき前進

世の中になくてはならない企業になる

(3) 重点施策：

- ① ホールガーメント事業の最強化
- ② ソリューションビジネスへの業態変換
- ③ 独自性を持った事業多角化の推進
- ④ 社会の変化に対応した経営基盤の再構築

2. 新「中期経営計画」の数値目標(連結)

	2023 年度 (目標)	2020 年度 (実績)
売上高	540億円	244億円
営業利益	20億円	△91億円
経常利益	25億円	△72億円
当期純利益	20億円	△178億円

※将来へ向けた中間目標の位置づけ

※ 新「中期経営計画」の詳細につきましては、別紙資料をご参照ください。

※ 本資料に記載されている当社の計画および業績の見通し、戦略などは、発表日時点において入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、様々な要因により大きく異なる可能性がありますことを、予めご承知おきください。

以 上



中期経営計画

(2021～2023年度)

Ever Onward 2023

2021年5月7日

前中計の結果（2020年度業績）

- 販売不振により、売上高が大幅に減少
- 2期連続の営業損失（2019-2020年度）

(億円)	2017年度 実績	2020年度 実績	増減率 2017→2020実績	前中計 当初目標	増減率 目標→2020実績
売上高	718	244	△66%	1,000	△76%
営業利益	149	△91	—	250	—
経常利益	155	△72	—	250	—
当期純利益	112	△178	—	180	—
ROE	9.9%	△18.1%	—	12%	—

外部環境と「当社課題」

外部環境の変化

消費者

- 人口増加等によるGDPの拡大
- 消費行動の変化
(コト消費、SDGsへの関心、SNSの普及)

サプライヤー

- スマート工場やDX化の機運の高まり
- 成型機への投資が一巡、無縫製機投資へ
- 横編機の低価格化への要望

リテーラー

- コロナ禍を背景にしたEC化の加速
- SDGs対応への関心の高まり

競合他社

- 価格競争力の向上と製品ラインアップの充実
- 業界再編の動き

機会の 拡大

- 中長期での安定的なアパレル市場
- 環境変化による新たな市場の創出 (DX化やSDGs対応など)

当社課題

- [ホールガーメント] × [ソリューション] への事業構造の移行
- 顧客ニーズに応える製品の開発・供給スピードの向上
- 新たな領域での事業展開 (既存事業周辺領域など)

新中計の「概念図」

ステークホルダーズ



シマセイキ

中期経営計画

ビジョン

経営理念/ミッション

経営理念/ミッションの実現

Ever Onward — 限りなき前進
「世の中になくてはならない企業」
になる

新中計の基礎となる「経営方針」①

経営理念／ミッション

Ever Onward — 限りなき前進

私たちは「**愛**」「**創造**」「**氣**」を合言葉に「**Ever Onward — 限りなき前進**」を掲げ、事業の持続的発展により、「**世の中になくてはならない企業**」になることを目指してまいります。

- 「**愛**」 私たちは、仕事を愛し、人を愛し、国や地域を愛し、地球を愛することを通じて、人や環境にやさしい「もの創り」を目指し、社会に貢献します。
- 「**創造**」 私たちは、高感度・高感性で創造力を発揮し、世の中に無い魅力的なものを創り出すことを目指します。
- 「**氣**」 私たちは、何ごとにも、成し遂げる“氣”を持って挑戦し、製品やサービスに魂を込め、未来を切り開いていきます。



新中計の基礎となる「経営方針」②

10年後ビジョン

- ▶ 当社の独創的な技術が広まることで、ファッション業界の発展に貢献する「**課題解決型企业**」へ進化していること
- ▶ ファッション業界で培った強みを活かして、他の業界の発展にも貢献する「**感性情報型企业**」へ進化していること



「**変革**」と「**再生**」

社員一人一人の「意識」と「スピード」を変革し、
ゼロから生まれ変わる。

新中計の「重点施策」と「事業領域」

③ 独自性を持った事業多角化の推進

早期の新事業立ち上げによる経営安定化へ

② ソリューションビジネスへの業態変換

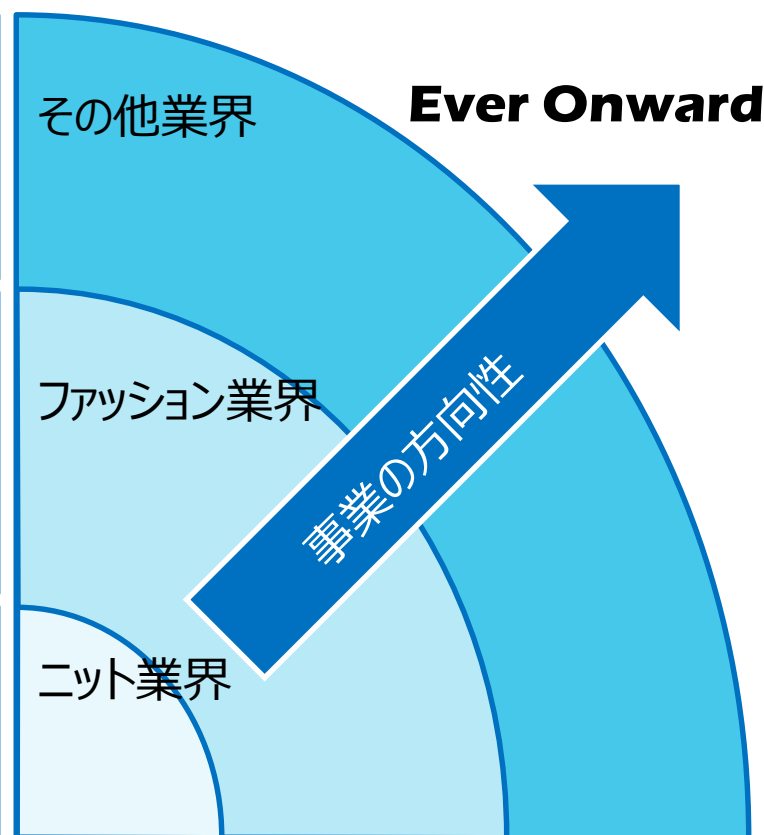
ファッション業界全体のサプライチェーン改革へ

① ホールガーメント事業の最強化

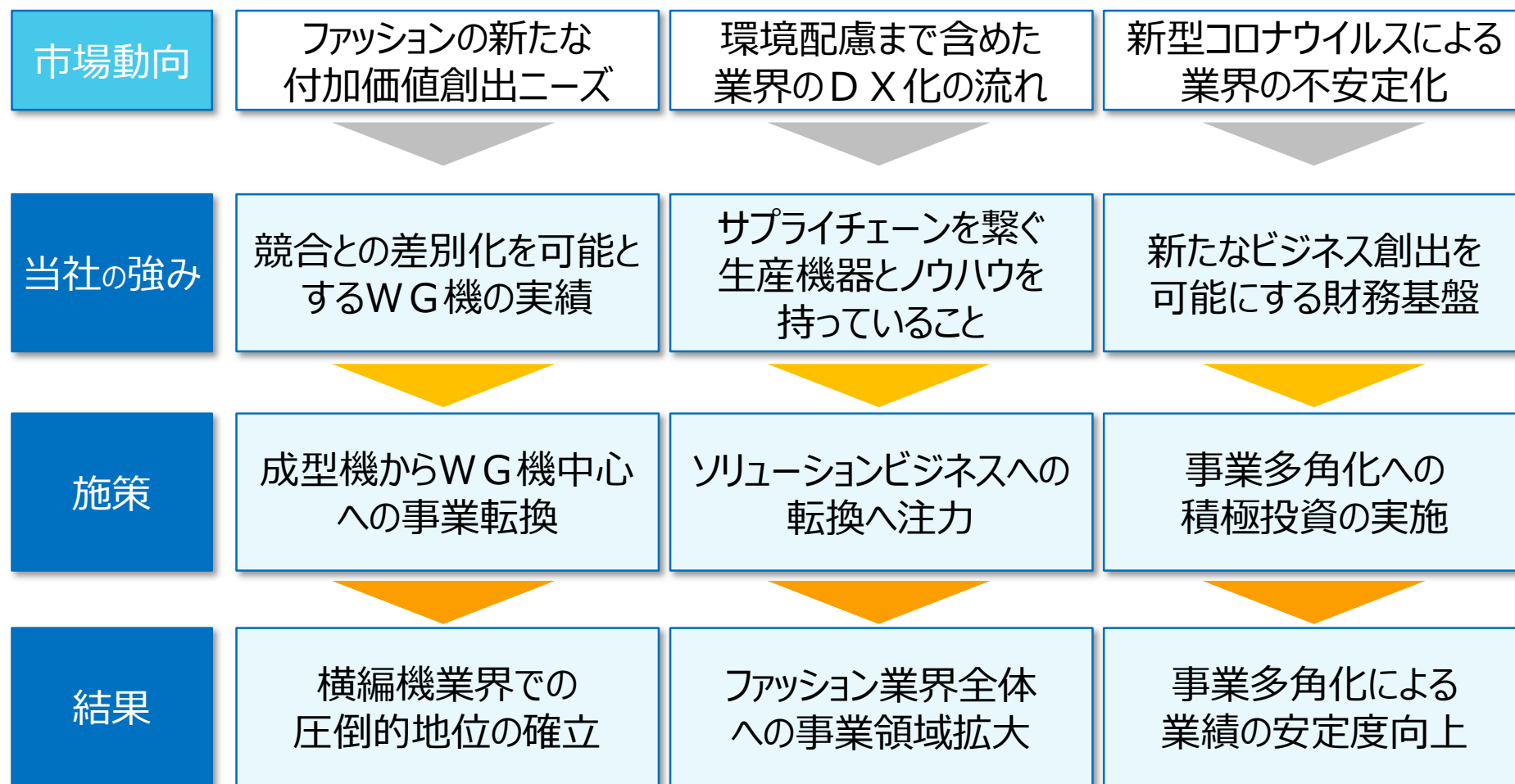
成型機中心からWG機中心の事業構造へ

④ 社会の変化に対応した経営基盤の再構築

コロナ後を見据えた経営体制へ



市場動向 と 新中計の重点施策



まずは今後3年間で、業界全体の変革の流れを作りながら、当社業績を黒字化させる。【**変革**と**再生**】

新中計の「経営目標」

- 将来へ向けた中間目標の位置づけ
- ミッション達成を通じて、更なる企業価値の向上を目指す

(億円)	2017年度 実績	2020年度 実績	2023年度 目標	増減率 2020→2023
売上高	718	244	540	+121%
営業利益	149	△91	20	—
経常利益	155	△72	25	—
当期純利益	112	△178	20	—

目標達成に向けた新中計の「重点施策」

① ホールゲーム事業の最強化

▶ 成型機中心からW G機中心の事業構造へ

② ソリューションビジネスへの業態変換

▶ ファッション業界全体のサプライチェーン改革へ

③ 独自性を持った事業多角化の推進

▶ 早期の新事業立ち上げによる経営安定化へ

④ 社会の変化に対応した経営基盤の再構築

▶ コロナ後を見据えた経営体制へ

重点施策の「概要」

① ホールゲーム事業の最強化

➤ 成型機中心からWG機中心の事業構造へ

(施策内容)

機能強化した新製品の開発

+

製品のコストダウンの徹底

+

販売促進策の実行



➤ 競合他社との差別化を図った WG機中心の事業構造へ

(主な取り組み)

- 開発投資の継続
- マーケティング機能の強化

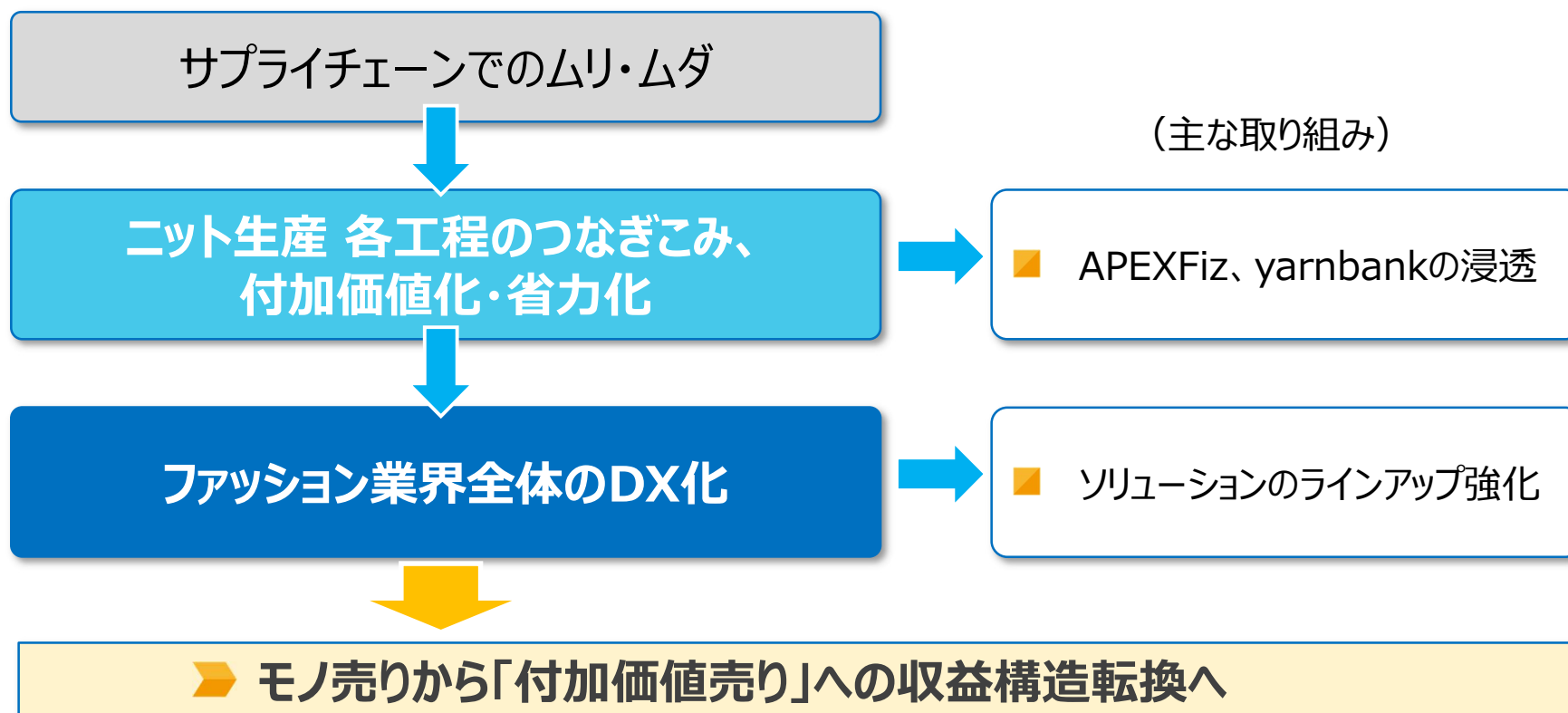
- 生産工程の自動化推進
- 全社的な業務の見直し

- サービス体制の強化
- 他社との協業の強化

重点施策の「概要」

② ソリューションビジネスへの業態変換

➤ ファッション業界全体のサプライチェーン改革へ



重点施策の「概要」

③ 独自性を持った事業多角化の推進

➤ 早期の新事業立ち上げによる経営安定化へ

多角化方針の決定

… 事業領域、規模、目標の設定

+

投入資源の決定

… 投資枠の設定、人材確保



個々の事業プランの決定

ターゲットの拡大

既存事業のマネタイズ

ニュービジネス

➤ 横編機事業偏重からの脱却、安定した収益構造の確立

重点施策の「概要」

④ 社会の変化に対応した経営基盤の再構築

➤ コロナ後を見据えた経営体制へ

経営環境の急激な変化



経営方針の徹底



事業領域

事業規模

目標設定



➤ 施策の実行に必要な経営基盤の整備

製品セグメント別 売上高

	(億円)	2020年度 実績	2023年度 目標	備考
売上高		244	540	■ 増減率： +121%
横編機		155	365	■ ホールガーメント機が中心
デザインシステム関連		25	45	
手袋靴下編機		19	25	
その他		45	105	■ 部品販売、周辺機器の 販売強化など

持続可能な社会の実現に向けた取り組み

持続可能な社会実現への貢献を 当社の重要課題のひとつとして認識

- ▶ 持続可能な社会の実現のために、SDGs(持続可能な開発目標)の達成を目指して『製品』『会社』のそれぞれの段階で取り組みます。

取り組み 2030年目標として 主に9つの課題に対し取り組みを推進します。

『製品』を通じて



ファッション業界の
DX化



ニット製品の
在庫ロス削減

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS

『会社』を通じて



女性役職者
登用増



有給休暇
取得率UP



適正な工場
排水処理



化学物質
排出量削減



CO₂排出量
削減



再生可能エネルギー
使用比率UP



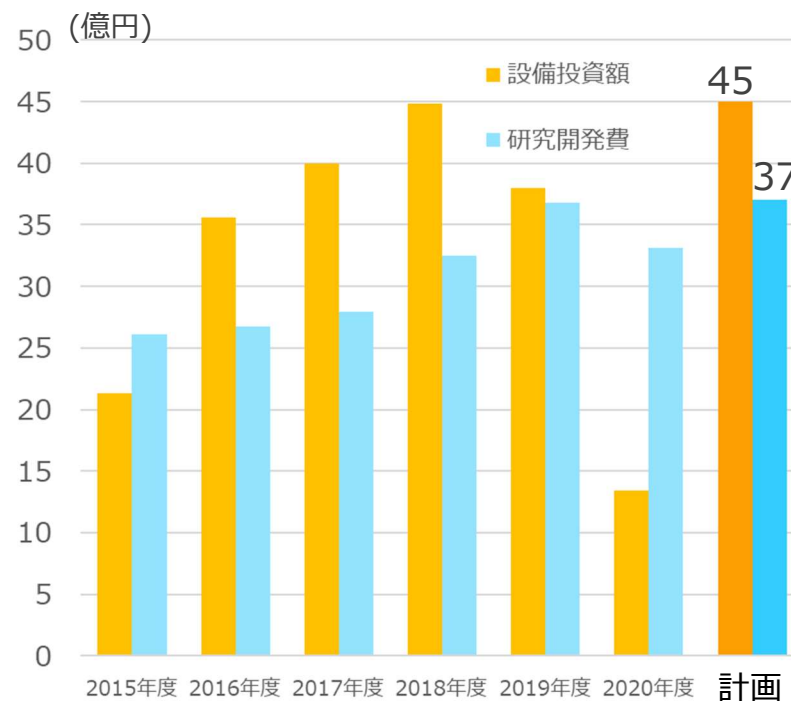
緑地割合UP

投資計画

中長期の視点で積極的な投資を継続

- ▶ 高水準の開発投資を継続
- ▶ 生産能力増強のための自動化投資の促進
- ▶ 全社的視点での人材教育、
中長期視点での人材投資
- ▶ 既存事業強化・新事業創出のための
投資枠20億円の設定
- ▶ 環境投資の強化

設備投資額/研究開発費



株主還元

(1) 利益還元方針

当社は株主に対する利益還元を経営の最重要課題のひとつとして位置付け、事業の持続的发展を通じて、安定した配当を長期にわたって継続することを基本方針とする。

そのうえで、長期的視点に立った成長投資および今後の事業展開に備えた内部留保にもバランス良く配分を行う。

(2) 株主還元指針 (2021年度から3カ年)

連結配当性向：30% を目安とする。

- ▶ 業績の黒字化を実現し、連結配当性向30%を目安とする「株主配当」を実施するとともに、株価水準や資金の状況、市場環境などを総合的に勘案し、時機に応じて柔軟に「自己株式の取得」を行うなど、資本効率の向上にも努める。



Ever Onward — 限りなき前進

(ご注意)

本資料に記載されている当社の計画および業績の見通し、戦略などは、発表日時点において入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、様々な要因により大きく異なる可能性がありますことを、予めご承知おきください。